

け知人五名(内四名は婦人)を招かれ、婦人、令嬢方を集めて茶をすゝめて下さつたには可なり恐縮、

否恐怖を感じました。こんなに婦人が多數列席さ

れてゐるなら洒落の一つも言ひたいのであるが洒落どころか眞面目な話すら碌に出来ず、教授から

「バーゼル訛が多いので御解り難いでせう」と宥

められ 多少は救はれたものゝ、教授以外の人と

は殆ど話が出来なかつたので汽車の時間の近づい

たのを幸に急遽別れをつけて逃げて來ました。平

素から別して外國語に於ては専門以外の書には餘

り眼を通してゐなかつた自分はこの日靦面に業果

を感じ、花月草紙にあつたうつばりの上をも歩む

べし云々の句が恰も啓示のやうに特に強く腦裡に

浮出しました。(七月十一日)

景 報

左右田博士の逝去

去八月十一日本會會員であり又本學部講師であつた左右田博士の訃を傳ふ。氏の深き思索と豊かなる學殖とは久しく我等の敬慕措く能はざるところであつた。然るに天君に齡を假さずして未だ知命に達せざるに既に白玉樓中の人と成り給ふこと氏がため又我學界のために惜みても餘りあることである。曩に我が誌上に於いて西田博士に寄せられたる論文未だ我等が記憶に新しきに今すでにこの惻しきを見る。朔風寥々徒らに我に辛きを想ふ。一言蕪辭を以て謹みて博士の靈を弔ふ。